

# 自然と生きる

自然の中で楽しそうに生きている昆虫たち。しかし、その中には、絶滅しそうな昆虫もいます。理科の時間は、昆虫がすめる自然環境を守っている、塩尻キリギリスの会の皆さんの取り組みを紹介します。



鳴くのはオスで、前ばねをこすり合わせて、音を出します。

## 塩尻に響け、キリギリスの声

「ギーーチヨン ギーチヨン」心地よい鳴き声から夏の風物詩とも言われ、イソップ物語にも登場するキリギリス。実は、塩尻市では、ほとんど見ることができなくなりました。18年3月に発行した塩尻市版レッドデータブック「残したい塩尻の動植物」でも、絶滅の危険が増大している絶滅危惧Ⅱ類とされています。キリギリスが激減した背景には、農薬の散布や道路の整備など、より便利な暮らしを求める人間の営みが影響して

いると言われています。

そんなキリギリスの鳴き声を塩尻市に呼び戻したいと、15年間に渡り活動が続けているのは、「塩尻キリギリスの会」。66歳から83歳までの13人で、ふるさとの自然を皆さんに残しています。会ができた平成5年には、小坂田公園の市民プール北側の斜面3、800平方メートルを「キリギリスの鳴く丘」と名付け、その後、3年間で約2、300匹の幼虫と成虫を放しました。放すキリギリスは、会員の皆さんが、近くの生息地を探して捕った成虫や、秋に産んだ



キリギリス (オス・成虫)

